INTRODUCTION

# 映画館で心地の良い宙ぶらりん体験を

今年のテーマは「宙ぶらりん」です。この語を辞書で引いてみると「空中にぶら下がった状態。どっちつかずで中途半端な状態」と出ます。どうやらあまり良いニュアンスでは使われない言葉のようです。確かに昨今よく聞くようになった「タイパ」や「コスパ」が重要な世界では、どっちつかずで中途半端なヤツなど単なる足手まといかも知れません。

しかし、私は映画館という暗闇の中で映画を観ている時に、そういったネガティブな雰囲気ではなく、むしろ心地の良い「宙ぶらりん」を体験することがあります。それはきっと映画を観る際に、主人公を善悪でジャッジするために観に行く人が少ないように、映画側も私たちをジャッジしようとはせずただそこに在るだけだからではないでしょうか。映画を観ている時の沈黙には、タイパやコスパでは取りこぼすような、雄弁で豊かな語りが溢れているはずです。

ということで、今回の映画祭ではそんな「宙ぶらりん」を皆さまに存分に堪能して頂く為に、一見すると「曖昧」や「よく分からない」、「そういう世界もあるよね」という言葉で片付けられてしまうような状況や関係性、主人公の映画を9本セレクトしました。善悪や常識では語れないような不思議な魅力に満ちあふれた映画たちによって、少しでも自分の心の声、自分の呼吸のリズムに耳を傾けてもらえたら幸いです。

企画リーダー：文芸コース4年 桑原杏奈

チームメンバー：五反田愛果、森本哲平、陳己男、大塚笑唯
成瀬希望花、中村怜、吉原匠汰朗、髙田龍太郎、柳田恵里
迫間未唯奈、高橋壮太、菊池暁、小泉摩奈

この上映会は日本映画大学の3～4年生が受講する授業「上映企画ワークショップⅠ・Ⅱ」の仕上げとなるイベントです。担当教員の私は今年からの新参者で、大学も、この町も、まだ右も左もわからぬ「宙ぶらりん」な状態です。さまざまな映画の中にある「宙ぶらりん」を観て、ほっと一息ついてみる。彼らの掲げたコンセプトはまさに私のような人に必要なのかもしれません。皆様もぜひ、映画館で宙ぶらりんを楽しんでみてください。

日本映画大学 マネジメントコース・准教授
菅野和佳奈

## 5.9［金］

### 皆殺しの天使 14:30

監督：ルイス・ブニュエル
出演：シルヴィア・ピナル、エンリケ・ランバル、ジャクリーヌ・アンデレ、ルシー・カリャルド、エンリケ・G・アルバレス
1962年／メキシコ／白黒／スタンダード／95分／DCP

ある夜、ブルジョアの邸宅で晩餐会が催される。会が始まると、なぜか使用人たちは次々と姿を消し、晩餐を終えた招待客は夜が明けても外に出ることができない。ついには食料も底をつき…。人間の基本的な欲求が満たされなくなるにつれ、彼らの社会性は急速に崩壊し、人間性の仮面が少しずつ剥がされてゆく。

宙ぶらりんポイント　不条理やシュールという言葉の先にある、私たちが映画に求める「意味」。（高田）

### 他人の顔 16:30

監督：勅使河原宏／原作：安部公房
出演：仲代達矢、京マチ子、入江美樹、平幹二朗、岸田今日子、岡田英次
1966年／日本／白黒／スタンダード／122分／35mm
©1966 一般財団法人東月会

安部公房の長編小説が原作。液体空気の爆発事故で火傷を負い顔を失った主人公。同業者や妻にまで拒絶された彼は、顔の全てを変え「他人の顔」になり、自己回復のため自分の妻を誘惑しようとする。「自分は誰でもない純粋な他人だ」。「他人の顔」という新たな仮面をつけることで、自己と他者との関係性の変化が徐々に露呈していく。

宙ぶらりんポイント　「他人の顔」をつけ誰でもない自分という自由を手に入れた時、他者との関わり方や人格はどう変貌するのか。（迫間）

### 普通は走り出す 19:00 トーク

監督：渡辺紘文
出演：渡辺紘文、萩原みのり、古賀哉子、加藤才紀子、ほのか、黒崎宇則、永井ちひろ、久次璃子、平山ミサオ、松本まりか
2018年／日本／白黒／16:9／107分／Blu-ray

シナリオが書けず苦しむ映画監督の日常を、虚実織り交ぜながら独特なユーモアで語る。誘惑に負けてしまう情けない主人公が肥大化した自意識の中で必死にもがく姿は、自ら主演を務める渡辺紘文監督自身にも重なる。「見る」「見られる」という映画の特性を最大限活かした“超”極私的作品の、映画に対する愛憎が、創作に対する想いが、いま爆発する。

宙ぶらりんポイント　鬱屈した繰り返しの日々の中で自堕落な生活を送る主人公の姿と、思わず笑ってしまう不器用さや哀愁漂う様。（森本）

## 5.10［土］

### システム・クラッシャー 14:30

監督：ノラ・フィングシャイト
出演：ヘレナ・ツェンゲル、アルブレヒト・シュッフ、リザ・ハーグマイスター、ガブリエラ=マリア・シュマイデ
2019年／ドイツ／カラー／ビスタ／125分／DCP

幼少期のトラウマが原因で自分を制御できず、すぐに怒りを爆発させて容赦なく暴れてしまう少女ベニー。彼女は行く先々で問題を起こし、施設をたらい回しにされる。ベニーはただ、ママのもとに戻りたいだけなのに。そんな中、非暴力トレーナーのミヒャの提案で、水も電気もない森深くの山小屋で隔離療法を受けることに…。

宙ぶらりんポイント　愛されたいと思えば思うほど、足掻けば足掻くほど、ベニーの居場所が失われていく。（柳田）

### こちらあみ子 16:55 トーク

監督：森井勇佑／原作：今村夏子
出演：大沢一菜、井浦新、尾野真千子
2022年／日本／カラー／ヨーロピアンビスタ／104分／DCP
©2022「こちらあみ子」フィルムパートナーズ

あみ子は風変わりな女の子。優しい家族と穏やかな広島の風景に見守られて、真っ直ぐ純粋に育った。そんなあみ子はもうすぐ生まれてくる弟とトランシーバーでお喋りするのを楽しみにしていた。しかし、大雨の中家を出た母は弟を連れて帰っては来なかった。ずっと変わらぬ瞳で世界を見つめ続けるあみ子によって、周囲はどんどん変えられていく。

宙ぶらりんポイント　あみ子の瞳が大好きだ。あの目に映る世界なら、どれだけ残酷でも無垢に信じようと思える。だけどちょっとだけ怖いな。（桑原）

### 台風クラブ 4Kレストア版 19:30

監督：相米慎二
出演：三上祐一、紅林茂、松永敏行、工藤夕貴、大西結花
1985年／日本／カラー／ビスタ／115分／DCP
©ディレクターズ・カンパニー

大型台風が接近する信州の田舎町。中学生達がやり場のない感情を高ぶらせていく姿を活き活きと描く。激しい雨風が吹き荒れるなか、さまざまな混乱に陥った数人の生徒が学校に取り残されて…。台風の到来によって生まれる非日常的な興奮や狂気。1985年・第1回東京国際映画祭のヤングシネマ部門グランプリを獲得した相米慎二監督の代表作品。

宙ぶらりんポイント　彼女らを突き動かす、あの不気味な力は一体何だろう。なぜ下着で踊る？ 蹴り続ける？ なぜ夢中で観てしまう？（桑原）

## 5.11［日］

### ドコニモイケナイ 14:30 トーク

監督：島田隆一
出演：吉村妃里
2011年／日本／カラー／4:3／86分／Blu-ray
©JyaJya Films

2001年、自分の居場所を探し求める若者たちが集う街、渋谷。当時日本映画学校の学生だった監督の島田隆一は、一人路上で歌う吉村妃里に魅了され、ドキュメンタリー実習の被写体として撮影、取材をする。映画制作が中断、卒業した後も未練が残る島田は過去の自分に決着をつけるため、10年後再び彼女に会いに佐賀へ向かうが…。

宙ぶらりんポイント　行く宛てもなく渋谷を彷徨う彼女自身の心と、先の見えない将来の夢や希望。全てが予測不可能なところ。（迫間）

### PASSION 16:50

監督：濱口竜介
出演：河井青葉、岡本竜汰、占部房子、岡部尚、渋川清彦
2008年／日本／カラー／ビスタ／115分／DCP
©東京藝術大学大学院映像研究科

結婚間近の果歩と智也を祝う席上、智也の過去の浮気が発覚し…。男女5人が揺れ動く一夜を、緻密な会話劇や驚異的な長回し撮影を通じて描いた群像劇。第56回サン・セバスチャン国際映画祭、第9回東京フィルメックスへ出品された本作は、映画作家・濱口竜介が東京藝術大学大学院の卒業制作として監督、世界に発見されるきっかけとなった。

宙ぶらりんポイント　理解への無理解、無理解への理解が交錯した先に訪れる、「好き」という言葉に本来付随していたはずの意味。（髙田）

### こわれゆく女 19:10

監督：ジョン・カサヴェテス
出演：ジーナ・ローランズ、ピーター・フォーク、マシュー・カッセル
1974年／アメリカ／カラー／ビスタ／147分／DCP
©1974 Faces International Films,Inc.

愛する夫ニックや三人の子供たちと暮らすメイベルは、その愛情の強さゆえに精神のバランスを崩しがちだった。ある夜、夫婦二人だけで過ごす約束が叶わないと知ると、メイベルはバーで知り合った男を家に連れ込んでしまう。ニックは奇行が目立ち始めた妻を精神病院に入院させる。その半年後、メイベルの退院を祝うべく人々が集まったが…。

宙ぶらりんポイント　こわれていくのは本当に妻なのだろうか。理解のない夫、枠に当てはめてくる世間との対峙に何を思う。（柳田）

**上映後トークショー開催決定!**

5.9［金］『普通は走り出す』上映後 渡辺紘文［映画監督］

5.10［土］『こちらあみ子』上映後 森井勇佑［映画監督］

5.11［日］『ドコニモイケナイ』上映後 島田隆一［映画監督／本学准教授］